

IV 各部・各学年・各教科の目標

1. 各部の努力目標

〈 教務部 〉

(1) 基本方針

各部・各学年並びに各教科と密接な連携をとり、学校全教育活動を円滑に推進し教育目標達成に努める。

(2) 努力目標

- ① 行事の精選
- ② 授業時数の確保
- ③ 教育課程の整備
- ④ 諸表簿の整理保管の徹底
- ⑤ 校内研修の充実
- ⑥ 内規の整備
- ⑦ 進路相談支援システムの運用管理
- ⑧ P T A活動の活性化
- ⑨ 広報活動（パンフレット作成）

〈 生徒指導部 〉

(1) 基本方針

生徒指導は、全教職員の「共通理解と実践」が最も大切である。学校の「教育目標」の達成と「良い校風と伝統」を築き、発展させるため、次の「教師の基本姿勢」を確立し、努力していくこととする。

- ① 全教職員の共通理解を深め、個々の問題は、相互の連携を密にして行う。
- ② 教師への信頼感と指導性の確立に努力し、生徒理解の深化に努める。(師弟同行)
- ③ 生徒指導の中核をホームルームにおき、ホームルーム担任が主体的に取り組み、学年会、職員会を通して横の連携を深める。(率先垂範)
- ④ 生徒の基本的生活習慣の確立を中核に据えた「生きる力」を育む。
- ⑤ 父母や地域社会との連携を取りながら生徒の指導にあたる。

(2) 努力目標

教育目標・努力目標・校訓・生徒指導の基本姿勢に則り、『すべての教師があらゆる教育活動において同一実践』するものとする。(毅然としたねばり強い指導が生徒の社会的自立を育む。)

- ① 自発的・積極的・生き生きとした学習態度の確立。じりつできる生徒の育成。
- ② 規律ある学校生活の確立（態度教育の確立）
- ③ ホームルーム活動・生徒会活動・部活動の指導強化
- ④ 父母・地域社会との連携を密にする。

〈 進路指導部 〉

1. 基本方針

生徒一人一人の全人的な発達を促し、自己理解に基づいた進路指導を行う。

2. 努力目標

(1) 進路指導を強化充実し、進路の早期絞り込みをさせ、目標達成に努める。

- ① 進路希望調査、学習実態調査を実施する。
- ② 学級担任との連携を密にして、LHRを通じて進路指導を行う。
- ③ 学習雰囲気を整え、目的意識の高揚をはかる。
- ④ 進路講演会、進路説明会を実施する。
- ⑤ 授業を大切にし、家庭での予習・復習の定着をはかる。
- ⑥ 特進クラスの活性化を図る。

(2) 積極的進路選択を促す。

- ① 県内外の大学等に関する情報の収集と提供に努め、受験意欲を高める。
- ② 大学入試センター試験の受験を奨励し、各種大学への受験機会が広がるよう指導する。

(3) 各種講座を充実し、学力の向上をはかる。

- ① 早朝講座 (1, 2年は全員対象。3年生は希望制)
 - ア. 毎朝7時40分から8時20分までの40分間とする。
 - イ. 原則として、内容は、基礎的なものから発展的なものまで幅広く扱う。
 - ウ. 原則として、1, 2学年は国・数・英の3教科を中心に行う。
 - エ. 原則として、3年生希望講座は国・数・英・理・社の5教科を中心に行う。
- ② 各種講座 (すべて希望制講座)
 - ・ 1学期放課後講座・2学期放課後講座・3学期放課後講座、夏期講座、2次対策講座

(4) 諸テストを実施し、その有効な活用をはかる。

① 全員必修の試験

| 1年生 | 2年生 | 3年生 |
|------------------------------|------------------------------|------------------------------|
| 4月 第1回校内実力テスト (スタディーサポート) | 4月 第1回校内実力テスト (スタディーサポート) | 4月 第1回校内実力テスト (スタディーサポート) |
| 7月 小論文模試 | 7月 小論文模試 | 5月 小論文模試 7月 小論文模試 |
| 9月 第2回校内実力テスト (スタディーサポート) | 9月 第2回校内実力テスト (スタディーサポート) | 9月 第2回校内実力テスト |
| 1月 第3回校内実力テスト (実力診断テスト) | 1月 第3回校内実力テスト (実力判定テスト) | |
| 2月 小論文模試 (第一学習社) | 2月 小論文模試 (第一学習社) | |

② 特進クラス必修模試 (下記の模試は特進クラス以外の生徒も希望者は受験できる。)

| 1年生 | 2年生 | 3年生 |
|-------------------|-------------------------|------------------------|
| 7月 総合学力テスト(ベネッセ) | 7月 総合学力テスト(ベネッセ) | 6月 進研マーク模試 (ベネッセ) |
| 11月 総合学力テスト(ベネッセ) | 11月 総合学力テスト(ベネッセ) | 7月 進研総合記述模試 (ベネッセ) |
| 1月 総合学力テスト(ベネッセ) | 1月 総合学力記述模試(ベネッセ) | 9月 第1回ベネッセ駿台 マーク模試 |
| | 2月 センター早期対策模試 (ベネッセ) | 10月 第2回ベネッセ駿台 記述模試 |
| | | 12月 河合塾センタープレ (河合塾) |

③ その他の希望制模試

上記①、②以外にも、河合模試、小論文模試、公務員模試、就職模試等の各種模擬試験を希望する生徒に実施し、進路決定に役立てる。

〈 図書視聴覚部 〉

(1) 基本方針

- ① 本校の教育活動に必要な資料や情報を収集し、活用の円滑化を図る。
- ② 生徒の健全な教養の育成を図る。

(2) 努力目標

- ① 図書・視聴覚部としての役割と機能を果たせるように図書、視聴覚資料や施設・設備機器（パソコン等）の充実及び効率的な利用を図る。
 - ア. ホームルーム活動の活性化に必要な資料の収集に努める。
 - イ. 職員研修に必要な資料の収集に努める。
 - ウ. 各教科に必要な資料の収集に努める。
 - エ. 生徒の進路決定に必要な資料収集に努める。
- ② 各教科およびホームルームの連携を密にし、施設利用の周知徹底と拡大を図る。
- ③ 図書委員会活動の活性化を図る。
- ④ ホームページを通し学校ピーアールに努める。

〈 環境整備部 〉

(1) 基本方針

- ① 施設・設備の整備や校内美化に努め、学校生活の環境を整える。
- ② 防災・安全対策に関し、生徒の安全確保及び学校の安全管理に万全を期す。

(2) 努力目標

- ① 施設・設備の拡充・整備を促進する。
- ② 校内緑化に務め、緑豊かな学園を目指す。
- ③ 美化意識を高め、清掃の習慣を定着させる。
- ④ 公共物を大切にすることを育てる。
- ⑤ 生徒美化委員の育成強化を図る。
- ⑥ ゴミ管理指導を徹底することで、環境に関する意識を高める。

〈 保健カウンセリング部 〉

(1) 基本方針

保健管理と保健教育の活動を適切に行うことによって、生徒や教職員の健康を保持増進し、心身ともに健康な人間育成を図る。

(2) 努力目標

① 保健について

ア. 健康管理

- 心身の健康管理
 - ・健康状態の把握
 - ・健康相談等の充実
 - ・感染症の予防（結核・麻疹・インフルエンザ・風疹等）
- 生活の管理
 - ・健康生活の推進
- 校内緊急体制の整備

イ. 保健指導

- ・保健来室者の個別指導
- ・性・エイズ・薬物乱用防止教育の推進
- ・保健便りの発行

ウ. 学校保健・体力向上推進委員会の推進

健全な心と体を育成するに当たって、学校における管理や指導だけでは本校の教育目標を達成することは困難である。したがって、PTAや地域との連携を深めて、生徒の一層の健康保持増進を図る。

② 教育相談について

- ア. 教育相談の充実………来室者へのカウンセリング推進
- イ. カウンセリング情報の収集……HR担任、教科担任、養護教諭および家庭との連携強化。
よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート(hyper-QU)の実施及びその有効な活用。
- ウ. 教育相談室の活用………担任による相談室利用等
- エ. スクールカウンセラーの活用
- オ. 別室登校に関する内規の検討

〈 事務部 〉

1. 基本方針

- (1) 予算の経済性・効率性等に基づき、適正な執行及び授業料及び学校徴収金の期限内納入に努める。
- (2) 教育環境の整備・充実に努める。
- (3) 事務の合理化・簡素化・迅速化に努める。

2. 努力目標

- (1) 予算の節減等について
 - ① 職員・生徒と協力し、電気料等の予算節減を推進します。
 - ② 職員と協力し、適正な予算執行及び備品管理に努める。
- (2) 授業料・学校徴収金について
 - ① 学級担任・学年主任等と連携をとり、授業料及び学校徴収金の期限内納入に取り組む。
 - ② 長期滞納者は、管理者(教頭)・学級担任等と連携し指導します。
 - ③ 保護者に対しあらゆる機会に、授業料及び学校徴収金の納入に対する理解と啓発を図る。
- (3) 施設・設備の整備・充実及び環境設備部と協力し、安全点検(危険箇所・修繕箇所の把握)に努める。

2. 各学年の努力目標

〈 1 学年 〉

(1) 指導目標

- ① 基本的な生活習慣の確立と自己教育力（じりつの精神）を育てる。
- ② 将来の目標を具体的に考えさせる。

(2) 努力目標

- ① 基本的な生活習慣の確立
 - ア. 挨拶の励行
 - イ. 遅刻・無届け欠席・欠課の指導
 - ウ. 清掃の徹底
 - エ. 服装・容儀の指導
 - オ. 下校指導の徹底
 - カ. 携帯電話利用のマナー指導
 - キ. 持ち物の管理
- ② 学習意欲の高揚
 - ア. 学習する雰囲気作り
 - イ. 家庭学習の習慣化を図る
 - ウ. 課外講座や模擬試験への呼び掛け
 - エ. 進路の早期決定への取り組みを図る。
- ③ ホームルーム活動の活性化

〈 2 学年 〉

(1) 指導目標

教育目標達成に向け、中堅学年としての自覚と「じりつ」の精神に則って、諸活動を主体的、創造的に取り組む力を育てる。

(2) 努力目標

- ① 基本的な生活習慣の確立
 - ア. 考えて行動する習慣の実践指導
 - イ. 挨拶の励行
 - ウ. 遅刻・無届け欠席・欠課の指導
 - エ. 清掃指導・環境整備の徹底
 - オ. 服装・容儀の指導
 - カ. 家庭との連携、協力
 - キ. 健康管理の指導
- ② 学習意欲の高揚
 - ア. インターンシップ等による進路に関する自己適正の理解促進
 - イ. 授業への集中するための学習環境・雰囲気作り
 - ウ. 家庭学習の習慣化
 - エ. 課外講座受講や模擬試験等の受験の奨励
 - オ. データ分析による生徒の学習意欲の調査とその対策
- ③ ホームルーム活動の活性化
 - ア. 自主的、創造的なホームルーム活動の育成

〈 3 学年 〉

(1) 指導目標

充実した最終学年が送れるよう「じりつ」した生活習慣を身につけさせ、自己の能力や個性を伸ばして進路への展望をしっかりと持たせる。

(2) 努力目標

- ① 基本的な生活習慣の確立
 - ア. 挨拶の励行
 - イ. 遅刻・無届け欠席・欠課を無くす指導
 - ウ. 清掃指導の徹底
 - エ. 服装・容儀の違反を無くす指導
- ② 進路指導の徹底
 - ア. 生徒や保護者との面談を通して個々の生徒を理解し、適切な進路指導を行うように努める。
 - イ. 家庭学習を習慣化し、各自の進路目標を達成できるようにさせる。
 - ウ. 講座の受講や模擬試験等の受験を奨励する。
 - エ. 進路指導部との連携を密にする。
- ③ 自主的、創造的なホームルーム活動の育成
- ④ 各行事や各種委員会に主体的に関わり、積極的に行動する生徒の育成。

3. 各教科の努力目標

〈 国語科 〉

- (1) 自主的な学習を習慣化させ「話す・聞く・読む・書く」などの基礎力を身に付けさせる。
- (2) 言語活動の充実を図り、論理的なものの見方や考え方、的確に表現する力を高める。
- (3) 様々な作品に触れさせることで鑑賞する力を高め、豊かな感性を養い、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

〈 地歴公民科 〉

- (1) 基本的学習内容を定着させ、基礎学力の底上げを図る。
- (2) 家庭学習・自主学習の定着に努める。
- (3) 受験指導を強化する。
- (4) 視聴覚教材の活用を促進する。

〈 数学科 〉

- (1) 指導目標・・・・・・・・基礎力の充実を図り、学習内容の着実な理解を目指す。
- (2) 指導方針
 - ① 1年生：数学Ⅰ、数学Aの基礎力を充実させて、確かな学力を養成する。
 - ② 2年生：内容を精選し指導することによって、数学Ⅱの概要が理解できるようにする。
 - ③ 3年生：選択科目の学習を通して多様な進路に対応できるように適切な教材を選択、作成する。
 - ④ 全学年共通
 - ア. 生徒が自ら考える習慣を身につけられるような学習環境を構築する。
 - イ. 学習した内容を確実に理解できるように家庭学習を促す方法を研究する。

〈 理科 〉

- (1) 自然に対する関心や探究心を高め、科学的な自然観を育てる。
- (2) 観察、実験などを通して、自然の事物・現象を身近なものとして捉えさせる。
- (3) 基本的な概念や原理・法則を理解させる。
- (4) 基本的な学習態度を育成する。

〈 体育科 〉

- (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高める。
- (2) 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育てる。
- (3) 公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

〈 外国語科 〉

- (1) 国際理解教育の推進
- (2) 英検の奨励とサポート
- (3) 各種講座の充実
- (4) TTや習熟度授業の効果的推進
- (5) 施設・備品管理の徹底

〈 芸術科 〉

- (1) 基礎・基本的な知識及び技能を習得させる。
- (2) さまざまな楽曲や作品に触れることで鑑賞する力を高め、豊かな感性を養い、芸術文化を尊重する態度を育てる。
- (3) 視聴覚教材等を活用し、授業内容の向上に努める。

〈 家庭科 〉

- (1) 実践的・体験的な学習を積極的に取り入れ、生活の自立に必要な知識や技術を習得させる。
- (2) 現在の生活や生涯の見通しをもって、よりよい生活を送るための各自の生活目標を持たせる。
- (3) 日常生活との関わりを確認させながら、家庭や地域社会に関心を持たせる。
- (4) 視聴覚教材等を活用し、授業内容の向上に努める。

〈 情報科 〉

- (1) 情報機器や情報通信ネットワークなどを活用して、情報を適切に収集、処理、表現するちからを定着させる。
- (2) 社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報社会の進展に主体的に対応できる能力と態度を身に付けさせる。

〈 国際人文学科 〉

- (1) 進学率向上のために学科として支援の在り方を研究し実践する。
- (2) 進路を保障するための教育課程を研究する。
- (3) 英語検定受検を全員に義務づけ、検定対策を充実させ卒業までに全員2級取得を目指す。
- (4) 校内での英語弁論大会やスキットコンテスト大会を充実させ、より実践的な場を提供することにより、対外的なコンテストでの上位入賞を目指す。
- (5) 海外研修を成功させるため、事前・事後指導を充実させる。

〈 体育学科 〉

- (1) 専攻実技種目（強化種目）を設定し、その高度な技能や理論と指導方法の習得を目指す。
- (2) スポーツV（野外）では1年生キャンプ実習・水辺活動（西表島）、2年生スキー実習（北海道）、3年生マリン実習（渡嘉敷島）等で、その技能の習得と自然に親しむ態度の育成、集団生活の在り方を学ぶ。
- (3) 最新の高度なトレーニング器械を利用し、科学的トレーニングによる体力、技術の向上を図る。
- (4) 健康や運動理論を探究することによって、さらに高度な運動技能の習得、実践を行い、将来の体育指導者の育成を目指し、体育系大学への進学率向上に努める。